

## 人権・防災講演会を行いました

1月27日（土）の平荘小学校最後のオープンスクールにおいて、人権・防災講演会を行いました。令和3年度には『はるかのひまわり絆プロジェクト』を、令和4年度には『命の一本桜プロジェクト』を行いました。そして、常に防災を意識しながら、あいさつが人と人をつなぐ防災活動だと、平荘っ子で取り組んできました。令和5年度は、この3年間の防災のまとめとして、『歌でつながる やさしさ ふわり』をテーマに、石田裕之氏をお招きして講演会を開催しました。



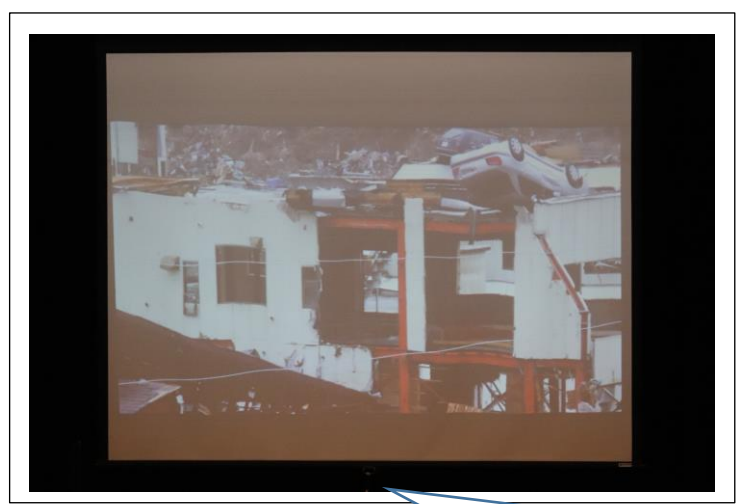
被災したらどんなことになるだろう。地震が起きたらどうしたらいいかを考えましよう。

石田さんは、阪神淡路大震災の被災者です。東日本大震災が起こった時に、東日本の被災地に行って、避難所でコンサートをされたそうです。「被災された方に歌を歌うことは、喜んでいただけるのだろうか？」と心配したそうです。被災者は、地震の後テレビもつかない状態で、楽しいことがなかったそうです。東日本に何度も何度も足を運ばれたそうです。100回以上も行かれています。



『津波てんでんこ』で、まずは、自分の命を守ることが大切です。

石田さんは、歌を通して、支援するとはどうすることかを教えてくださいました。  
 まず、能登半島地震の被災地支援に行かれたお話をお伺いしました。  
 輪島市や珠洲市に行き、支援をされています。  
 現在も水道や電気が使えない状態だそうです。夜は真っ暗の中でご飯を渡している状態だそうです。誰がどこにいるのかがわからない状態だそうです。



東日本で、津波の被害を写真の映像で伝えてくださいました。3階の建物の上に車が乗っている写真から津波の高さがうかがえます。  
 人々は、津波から逃げるために、できる限り高い所に、できるだけ早く逃げるように、そして、『津波てんでんこ』で逃げるのが大切だそうです。

### 『釜石の奇跡』

子どもたちが、「先生、もっと高い所に逃げよう」と言って、子どもたちも、大人（地域の人）ももっと高い所へもっと高い所へと逃げて行ったそうです。

石田さんは、「歌っていいのかな。喜んでくれるかな。」と悩まれたそうですが、被災者から、「今日は、神戸から来てくれてありがとう。私たちの避難所にもいろんな人が来て歌ってくれたり、励ましてくれたりしたけど、私たちに歌わせてくれたのは、あなたが初めてです。避難所では、自分のスペースは畳1枚で、プライバシーもない状態。大きい声で泣きたいことや叫びたいこともグーッとこらえてきました。今日、大きい声で歌えて楽になりました。ありがとうね。」と言ってもらったそうです。

石田さんは、被災者が主役で、被災者がリクエストした曲を演奏して、被災者に歌ってもらうそうです。



被災地へのボランティアは、自己実現のためではいけないのです。被災者が主役で、被災者が自分の足で立ち直るためのリクエストに応えることが大事なのです。

**どこかで困っている人がいたら、その人の心の声を聴くことが大事なのです。**

被災地のボランティアは、地元の人が主役になるお手伝いをすることです。

阪神淡路大震災は、まだ終わっていないのです。あの地震の影響を受け続けている人がいるのです。悲しみと共に生活をしている人がいるのです。

仮設住宅で孤独死の新聞記事を目にします。住み慣れた地域を離れて生活をする中で、**人とのつながりが非常に大事**になってきます。

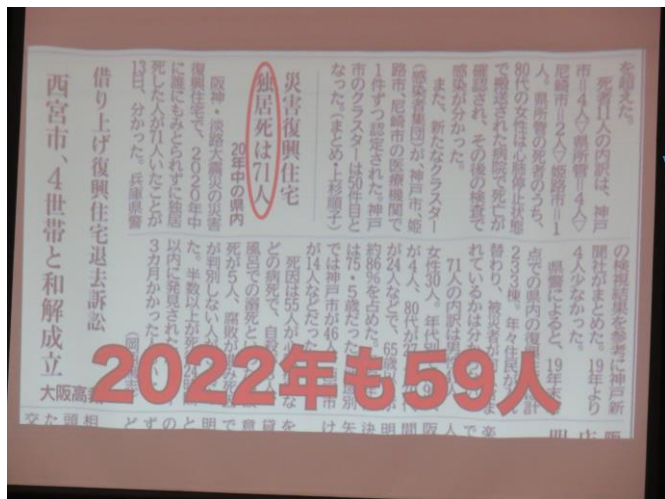
石田さんは、そういう場所に行ったら、集会所でコンサートをして、つながりが広がるように活動されています。

震災後1年・・・、だんだんニュースが流れなくなり、ボランティアの人が減ってくる頃。ガレキが片付いても、復興には時間がかかります。特に、心の復興には、もっともっと時間がかかります。今も苦しんでいる人がいます。悲しんでいる人がいることを、忘れないでほしいです。

### 【石田さんからのメッセージ】

忘れないでね

- ①まだ苦しんでいる人がたくさんいること
- ②次の災害への「そなえ」



### 【防災】

まずは、家族・友だちを大切にしましょう。そして、地域の人たちと仲良くしましょう。人とのつながりが、『いざ』というとき、あなたの命を守ります。身近な人たちとのつながりで助けられています。地域とのつながりを大切に！もっともっと続けましょう。